

総合型選抜 2023 年度過去問題 国際英語学科

I 日本語の意味を表すように、_____に適切な英語を入れ、英文を完成しなさい。

- _____ Tim and Chris nurses?
Tim と Chris は看護師ですか。
- He is always silent in class, but it _____ that he is a bad student.
彼は授業中いつも黙っているが、それは彼が悪い学生だということの意味してはいない。
- _____ do they usually eat a day?
彼らは通常一日にどれくらい米を食べますか。
- I'm going to go for a walk after I _____ lunch.
昼食を済ませたら散歩に出かけるつもりだ。
- When you called me, I _____ dinner.
君が電話をしてきた時は、もう夕食を済ませていた。
- Halloween is _____ Christmas.
ハロウィーンはクリスマスと同じくらいワクワクする。
- Everyone _____ when I entered the room.
私が部屋に入った時、皆が笑っていた。
- I bought a gift _____ I was sure my mother would like.
私はきっと母が気に入ると思う贈り物を買った。
- _____ Beethoven could not hear, he could see.
ベートーベンは、耳は聞こえなかったが、目は見えた。
- The legal definition of an adult _____ for the first time in over 140 years.
成人の法的定義が 140 年ぶりに変更された。

II ホフステードは異文化コミュニケーションを成功に導くために、様々な文化の核となる価値観の特徴をいくつかの次元で表しています。以下はその中の一つの次元「不確実性の回避」について述べたものです。この文を読んで、あとの問いに答えなさい。

ホフステードが IBM 研究の中で見つけた 4 番目の次元は、あいまいなこと、確実でないことに対する態度で、「ある文化の成員が不確実な状況や未知の状況に対して脅威を感じる程度」と定義されている。脅威を感じる程度が高ければストレスが溜まり、明文化した規則や慣習的な規則を設けて、

あいまいさを少しでも予測可能なものに変えようとする欲求が高まるという。

ホフステードは不確実性の回避の度合いは、文化の不安水準の高さと関連しているという。また、不安の高い国ほど身振りや手振りといった非言語コミュニケーションが特徴的で、感情をあらわにすることが多いという。こういった感情の表出は「はけ口」として使われ、あまり感情をあらわに出さないように見える文化でも、特別の席、例えば酒の席などをもうけ、そこでは鬱積した感情を同僚だけでなく上司に発散したりもする。日本社会での仕事の後の飲み会や無礼講などがそれに当てはまるという。このような席での感情の発散は慣行であり、定期的なガス抜きのようなものであろう。

不確実性の回避の度合いが低い社会では不安水準は低く、あからさまな敵意や攻撃性、感情は表^{おもて}に出してはいけないとされ、騒々しく、感情的な人間は社会的に認められないという。このようなあいまいさに対する不安度が低い文化では清潔と不潔、安全と危険に対する区別は比較的ゆるやかで、未知の状況、知らない人やよく分からない考えに対しては寛容な態度をとる。身なりや髪形、話し方といった外見の違いについての規範もゆるやかである。学校においては自由な学習の場を好み独創性を重視する。教師が「分からない」と言っても受け入れられるし、子供の教育に関して教師は親の積極的参加を求める。職場においてはあまり規則はないし、社会においても絶対に必要な場合についてだけ規制を定めようとする。また独創的で奇抜なアイデアに寛容であるため革新的で刺激的なことが生まれやすい。

ホフステードによれば「違うことは危険」という外国人嫌いの態度は不確実性回避の傾向が強い文化の特徴をよく表しているという。また、そのような文化ほど家庭に対して否定的な感情を示す傾向が見られるという。知らない人は危険であると家庭で学んだ子供たちは家族に対しても敵意を持つようになるというのだ。学校においては不確実性の回避が強い社会では、学習は目標がはっきりと打ち出され、細かい課題が与えられることが多い。教師は正解を全て知っていることを期待され、生徒も教師の学問的見解に異論を唱えない。教育において素人である親は専門家である教師から相談されることはめったにない。職場においてはあいまいさを取り除くため規則や作業工程が内規によって定められている。ただ、権力格差が大きい場合は上司に権限があるので、内規は必要とされない。規則というものは不安材料であるあいまいさを取り除きたいという心理的欲求に根差しているため、規則を設けたいとか、規則を守らなければならない、と感じている場合が多い。

IBM 研究の結果によると日本は不確実性の回避度が高いが、日常的にあいまいさが多いとよく言われている。言語的にあいまいな表現をよく使うことからそう言われると推察される。そうするとホフステードの調査結果とは矛盾するように思われるが、日本人が使うあいまい表現は婉曲表現であり、実は日本人の間ではあいまいではないとも言える。例えば、頼み事をして相手が言いよんだら、これは断っているのだと解釈し、「考えさせてください」と言うのは「ダメです」を意味するというように、内容面での言語表現があいまいに聞こえても、日本文化を共有する者同士では関係面の情報あるいはコンテキストによって解釈されるべきメッセージの意味は共有されていると考えれば、日本人の日常のコミュニケーションは予測性の高いものだとは分かる。また、間違えることや察しがうまくできないことに対し恥ずかしいという観念があるとしたら、不確実性の回避度の高さを示すとも言えるだろう。

八代京子 他 (2017) 『異文化トレーニング [改訂版]』 (問題作成のため、一部省略)

問 まず、「不確実性の回避の度合い」とは何かについて本文を自分の言葉で簡単にまとめ、そのうえで、自身の経験をふまえ、日本語のコミュニケーションや日本文化の価値観について 800 字以内で論じなさい (字数には句読点も含む)。